2023年・春　竹久夢二美術館　企画展プレスリリース

TAKEHISA YUMEJI

竹久夢二 描き文字のデザイン

hand lettering design

―大正ロマンのハンドレタリング―

❶セノオ楽譜「ドント クライ スワニイ」1924年

竹久夢二

描き文字のデザイン ―大正ロマンのハンドレタリング―

TAKEHISA YUMEJI MUSEUM

2023. 4.1(土) ▸▸▸▸ 6.25(日)

竹久夢二美術館

●開館時間＝10:00～17:00（最終入館16:30）●休館日＝月曜日 ●ただし5月1日（月）開館

●入館料＝一般1,000円／大・高生900円／中・小生500円（弥生美術館と2館併せてご覧いただけます）●協力＝雪朱里

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-2 03-5689-0462

https://www.yayoi-yumeji-museum.jp

◆新型コロナウイルスの影響により、休館日・開館時間等が変更になる場合があります。

ごあいさつ

大正時代を中心に活躍した画家・竹久夢二(1884-1934)は、グラフィック・デザイナーとしても才能を発揮し、数多くの図案を残しました。

本展では、ポスター、書籍装幀、雑誌・楽譜表紙絵等の図案に展開された、夢二による描き文字のデザインを紹介します。ハンドレタリングで表現された個性的な文字に注目し、コンピューターでの制作とは異なる、描き文字ならではの魅力に迫ります。

さらに肉筆で残された書、原稿、プライベートに残した日記と手紙の展示を通じて、夢二による多彩な文字の表現をお楽しみください。

竹久夢ニ プロフィール

TAKEHISA YUMEJI

本名･茂次郎(もじろう)
1884-1934(明治17年−昭和9年)
岡山県生まれ 画家･詩人

センチメンタルな画風の〈夢二式美人画〉作品をはじめ、恋多く、旅も重ねて大正ロマンを象徴する存在として広く知られる。
明治・大正期の雑誌に発表した数々のイラストレーションをはじめ、日本画・水彩画・油彩画・木版画、さらにデザイン分野の作品を手掛け、さらに詩、童謡の創作にも才能を発揮し、詩画を融合させた芸術を開花させた。

展覧会の見どころ

- ✔ 大正ロマンの画家･詩人として知られる竹久夢二の新たな一面に注目。
  夢二が約100年前に手掛けた描き文字デザインを幅広く紹介する、初の企画展！
- ✔ ポスター、書籍装幀、様々な図案の展示を通じて、グラフィックデザイナーとしての才能を発揮した夢二の先進性を浮き彫りにします。
- ✔ 杉浦非水をはじめ、10人の書体デザインも展示します。

展示構成と出展作品(広報用画像)の紹介

※図版はすべて竹久夢ニ･画

出品点数 約 250 点

Ⅰ.描き文字デザイン

雑誌･楽譜表紙、装幀、ポスターをはじめとする様々な図案より、夢二のハンドレタリングを紹介。
個性的な書体と、装飾を施した文字デザインは、大正ロマンの画家･夢二の知られざる一面です。

❷セノオ楽譜「白鳥」
1926 年

❸セノオ楽譜「美しの月日」
1926 年

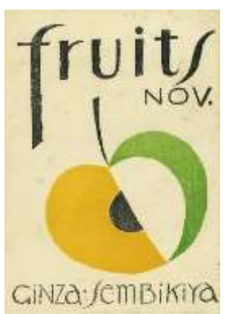
❹セノオヤマダ楽譜「扉」
1924 年

❺ KOE･MO SEN(『山へよする』口絵) 1919 年

和泉式部が詠んだ「越えもせむ越さずもあらむ逢坂(おうさか)の関もりならぬ人なとがめそ」を、自筆のローマ字で表している。周囲の装飾も含め、夢二の作風はウィリアム･モリス(1834-1936)の書物を彷彿とさせる。

❻『童謡 凧』のための図案　1926 年頃

❼『クロネコ』４月
1929 年
カフェ･クロネコの月刊誌



❽『fruits』NOV.
1929 年
銀座千疋屋の月刊誌

❾「雛による展覧会」ポスター 1931 年

Ⅱ.様々な文字の美

夢二の書がしたためられた日本画作品を中心に、
私的に残した日記と手紙も公開。多彩な文字表現をご堪能ください。

格子の外に
しのびよる
夜をまたせて
化粧のひまに
昨日別れた人をまつ
逢ふた時いふことを
独言して はつかしや
この夜ごろ
夢生作

❿この夜ごろ
昭和初期

風がひそり街の巷を
走るなり風におはれて
いそぐ心か　夢二生

⓫風がひそり　昭和初期

⓬恩地孝四郎宛 葉書
1911 年

Ⅲ.参考展示

明治･大正･昭和に活躍した 画家･デザイナー
10 人による描き文字デザインも展示します。

中村不折・藤島武二・杉浦非水・橋口五葉・岡本帰一
恩地孝四郎・武井武雄・初山滋・田河水泡・中原淳一

写真撮影 OK です！
(Ⅲ. 参考展示コーナーを除く)

展覧会概要

展覧会名称
竹久夢二　描き文字のデザイン
―大正ロマンのハンドレタリング―

主催及び会場　竹久夢二美術館

協　力　雪朱里

住　所　〒113-0032　東京都文京区弥生２－４－２

Ｔｅｌ　０３－５６８９－０４６２

会　期　2023年４月１日㈯～６月２５日㈰

休館日　月曜日
※ただし５月１日㈪ 開館
※新型コロナウイルスの影響により、
会期・休館日が変更になる場合があります。

開館時間　午前１０時～午後５時
（入館は４時３０分まで）

交　通
東京メトロ千代田線〈根津駅〉及び
南北線〈東大前駅〉よりいずれも徒歩７分
ＪＲ上野駅 公園口より徒歩２０分

入館料
一　　般　１０００円　　大・高生　９００円
中・小生　５００円
※弥生美術館と二館併せてご覧頂けます。

ギャラリートーク
４月２２日㈯、５月１４日㈰、６月１０日㈯
いずれも午後２時より、担当学芸員が展示解説を行います。（所要時間約４５分）

ホームページ
https://www.yayoi-yumeji-museum.jp

⓭展覧会チラシ

竹久夢二美術館

1990年11月3日開館。創設者・鹿野琢見（かのたくみ）（1919-2009）の夢二コレクションを公開しています。館が建つ東京・本郷は、夢二が滞在した〈菊富士ホテル〉がかつてあり、最愛の女性・笠井彦乃と逢瀬を重ねた場所。今なお昔の風情を留めて静けさと木々の緑に包まれています。都内で夢二作品を鑑賞できる唯一の当館では、年4回3ヵ月ごとに企画展を行い、夢二の生涯や芸術より様々なテーマを採り上げ、常時約200~250点の夢二作品を展示しています。

夢二カフェ　港や

店名の「港や」は、竹久夢二が大正3年に東京・日本橋に開店した小間物店「港屋絵草紙店」から名づけました。大きな窓がある2階席からは、緑豊かな美術館中庭が眺められ、静かで落ち着いた時間をお過ごし頂けます。お手頃価格で、コーヒーやケーキ、カレーをお楽しみください。

展覧会についてのお問い合わせは
竹久夢二美術館　学芸員　石川桂子　までお願いいたします。
tel　０３－５６８９－０４６２　fax　０３－３８１２－０６９９

FAX　０３－３８１２－０６９９

竹久夢二美術館　石川 行

竹久夢二
描き文字のデザイン －大正ロマンのハンドレタリング－

画 像 使 用 申 込 書

画像送付日　　月　　日 必着

掲載紙（誌）／番組名	
発売／放送予定日	
所属・ご担当者名	
ご住所　〒	
TEL	FAX
メールアドレス	

ご希望の図版番号に〇をしてください。

図版番号（プレスリリースをご参照ください）												
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13

読者プレゼント招待券　（5 組 10 名）	希望する	希望しない

通信欄

画像データの提供ついて

同封のプレスリリースに掲載の図版について、メールで画像データをお送りいたします。
ご希望の場合は、この申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX　03－3812－0699 までお送りください。
また美術館写真（外観／展示室）等を必要とされる場合はご一報ください。

読者プレゼント用招待券のご提供について

読者プレゼント用にご招待券（5 組 10 名様分）をご用意いたします。この用紙にてお申し込みください。

掲載紙（誌）ご送付のお願い

本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが掲載誌（紙）をお送りくださいますようお願い申し上げます。　〒113－0032　東京都文京区弥生２－４－２　竹久夢二美術館　担当　石川宛